

● ドアが開くと、きょうれつな光がドアからあふ
● れてきた。
● 「ま、まぶしい！」
● ドアの向こうに、何やらひとかげが見える。
● みさきはむがむちゅうで、その人を引つ張った
● 「う、うお、何するんでごわすか！」
● え！この太い声、太いうで、ま・・・まさか
● みさきが引つ張ったのは、おすもうさんであつ
● った。おすもうさんはドアの中に入っていき、
● みさきは光の世界に入っていく。
● 二人は入れ代わったのである。
● ふたたび、光の世界にもどれたみさき。
● しかし、彼女のすがたはおすもうさん。
● みさきは、一つのことになった。
● このドアは、私達の下にいるこのかげと、私達
● が入れ代わるためのドアなんだ。
● ふだん、自由に動けないかげたちが、私達とか
● わるタイミングを待っているんだ。
● みさきは手にしたカギを見つめた。
● もとのすがたにもどりた。
● そのためには・・・
● そうか、まずは、この世界にいる、私のすがた
● をした人をさがせばいいんだ。
● みさきは、カギをにぎりしめて、自分の家に帰
● った。
● 「ただいま！」と家に帰ると、
● 「きやーあんただれ！」と母。無理もない。

問　い　１　黒い世界からだっしゅつしたみさき

　　今度はだれと入れ代わったか。（

問　い　２　「きやー」と母。無理もないのはなぜか

（

（